

コロンビア政治情勢（２０２４年６月）

1 概要

【内政】

- (1) 人事関連
- (2) 労働省労組がストライキを開始（１日）
- (3) サントス元大統領、制憲議会に関する書簡を国連に送付（３日）
- (4) ムネラ・コロンビア国立大学学長選出（６日）
- (5) 紛争分析リソースセンター（CERAC）による違法武装組織に関する報告
- (6) 世界の平和状況に関する報告書（１２日）
- (7) 国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）による強制避難民に関する報告書（１３日）
- (8) 議会の閉会（２０日）
- (9) 司法府高官に対する通信傍受疑惑を受けた拒絶声明（２４日）
- (10) セグンダ・マルケタリアとの和平交渉開始（２４日～２９日）
- (11) 世論調査

【外交】

- (1) ムリージョ外務大臣、エルサルバドル大統領就任式に出席（１日）
- (2) パレスチナ外相、ペトロ大統領を叙勲（３日）
- (3) ペトロ大統領、メキシコ新大統領へ祝辞（３日）
- (4) ウクライナでコロンビア人傭兵５１人死亡（４日）
- (5) 米下院、コロンビアへの資金援助を削減するよう提案（１１日）
- (6) ペトロ大統領、スウェーデンを公式訪問（１２～１５日）
- (7) ムリージョ外務大臣、ベネズエラ人移民に対する特別滞在許可制度を発表（１８日）
- (8) ムリージョ外務大臣、ワシントンを訪問（２０日）
- (9) ボリビアでのクーデター未遂に対する拒否声明（２６日）
- (10) ムリージョ外務大臣、第５４回米州機構（OAS）総会に出席（２８日）

2 本文

【内政】

- (1) 人事関連
 - ア １日、陸軍の新司令官にルイス・カルドソ少将が就任した。
 - イ １１日、ルイス・レジェス国税税関庁（DIAN）長官が商工観光大臣として就任した。

ウ 12日、議会はカルロス・ロドリゲス会計検査院長を選出した。

エ 14日、ペトロ大統領は、ルイス・ベラスコ内務大臣の退任を発表した。

(2) 労働省労組がストライキを開始

1日、労働省の全国ストライキ委員会は、給与水準向上等を要求する目的でストライキを開始した。これに対し、ラミレス労働大臣は、労働権を尊重しながら対話テーブルでの交渉に向け必要な努力をする旨述べた。

(3) サントス元大統領、制憲議会に関する書簡を国連に送付

3日、サントス元大統領は、スペインのフェリペ・ゴンサレス元首相とウルグアイのホセ・ムヒカ元大統領と共に、国連事務総長に対し書簡を送付した。同書簡の中でサントス元大統領は、アルバロ・レイバ前外務大臣が提唱した2016年和平合意を根拠とした制憲議会召集に対し、憲法で定められた手続きを回避するものであるとしてこれを拒絶した。

(4) ムネラ・コロンビア国立大学学長選出

6日、コロンビア国立大学理事会は、同大学学長として指名されていたホセ・ペニャ氏に対する人事を無効とし、新たにレオポルド・ムネラ同大学教授を学長として選出した。ペトロ大統領は自身のXアカウントを通じてこの決定を歓迎したが、同学長選挙を巡っては政府の介入に反発する抗議活動が継続している。

(5) 紛争分析リソースセンター（CERAC）による違法武装組織に関する報告

紛争分析リソースセンター（CERAC）は、今年最初の5ヶ月間で、国内447の地方自治体（全体の40%）が武装組織による暴力の影響を受けており、新たにクラン・デル・ゴルフオが56自治体、EMCが36自治体、ELNが24自治体を支配下に置く虞がある旨報告した。

(6) 世界の平和状況に関する報告書

12日、豪州の経済平和研究所は、世界の平和状況に関する年次報告書を公表したが、その中でコロンビアは164カ国中146位にランクされ、4年連続で南米において最も平和でない国との評価を受けた。

(7) 国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）による強制避難民に関する報告書

13日、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）は、世界における強制避難民に関する報告書を発表した。同報告書によれば、2023年の時点でコロンビアは、国内の強制避難民が690万人であり世界で3番目に多いとした。なお、スーダンは910万人、シリアは720万人である。

(8) 議会閉会

20日、コロンビア議会が閉会した。この会期において、議会は政府から提案された医療保険制度改革法案や教育基本法案を廃案としたが、他方、年金改革や農業裁判所基本法案、債務上限引上げ法案等を可決した。

(9) 司法府高官に対する通信傍受疑惑を受けた拒絶声明

24日、憲法裁判所副長官等に対する通信傍受疑惑が報じられたことを受け、司法府の高官はこれら疑惑に対し強く反発する声明を発出した。これに対し、ペトロ大統領及びゴンサレス国家情報局 (DNI) 局長は、政府が通信傍受を行っていたことを否定した。翌25日、カマルゴ検事総長は DNI に対する捜査開始を発表した。

(10) セグンダ・マルケタリアとの交渉

24日、政府は、ベネズエラのカラカスにおいて、イバン・マルケス率いるセグンダ・マルケタリアと和平交渉を開始した。29日、政府とセグンダ・マルケタリアは戦闘を緩和することで合意すると共に、同グループが一方的な停戦を発表したのを受け、政府も同グループへの攻撃を抑制するとした。また、次回交渉は8月第2週にキューバで行われることが決定した。

(11) 世論調査

ア 6月の Cifras y Conceptos 社による政治家の好感度調査では、ペトロ大統領のイメージが今年2月の42%から38%へと低下した。また、マルケス副大統領は56%、ハラミージョ保健大臣が40%、ベラスケス国防大臣が31%の好感度だった。また、チャル・バランキージャ市長、グティエレス・メデジン市長、ガラン・ボゴタ市長、エデル・カリ市長は皆50%以上の好感度であった。

イ Cifras y Conceptos 社及びロサリオ大学による若者に対する共同意識調査によると、コロンビアの若者のイデオロギー的傾向は、中道 (54%)、右派 (28%)、左派 (18%) であった。

ウ 国連開発計画 (UNDP) による2016年和平合意履行状況に関する調査報告書によれば、2016年和平合意履行状況について満足していると回答したコロンビア人の割合が、2019年の35.9%から現在は58.2%に上昇した。

エ 6月の Invamer 社世論調査によれば、政権支持率は32%、不支持率は62%だった。なお、都市別に見ると、不支持率が高いのは、メデジン市 (77%)、ブカラマンガ市 (65%)、ボゴタ市 (61%) であり、逆にカルタヘナ (48%) は不支持率が最も低かった。また、政府が推進する全面和平政策については、約66%が間違った方向に進んでいると考えている。また、58.9%のコロンビア人が制憲議会召集に反対し、30.7%が賛成し

ている。

【外交】

（１）ムリージョ外務大臣、エルサルバドル大統領就任式に出席

１日、ムリージョ外務大臣は、エルサルバドルで行われたブケレ大統領の大統領就任式に出席した。また、同大臣は、ヒル・エルサルバドル外務大臣をはじめとした同国政府高官と会談を行った他、マヨルカス米国土安全保障長官とも会談した。

（２）パレスチナ外相、ペトロ大統領を叙勲

３日、パレスチナ自治政府のアル＝マルキ外務大臣はペトロ大統領を表敬訪問した。その際、イスラエル・パレスチナ紛争におけるコロンビア政府の支持を受け、同外務大臣はペトロ大統領に対しパレスチナ国家大襟章を叙勲した。

（３）ペトロ大統領、メキシコ新大統領へ祝辞

３日、ペトロ大統領は、２日に行われたメキシコ大統領選挙で勝利したシェインバウム次期大統領に対し X を通じ祝辞を送った。また、今後のメキシコとの二国間関係拡大についての希望も述べた。

（４）ウクライナでコロンビア人傭兵５１人死亡

４日、バレラス駐英コロンビア大使は、５１名のコロンビア人傭兵がウクライナにおいて死亡し同国から送還されたと述べた。これらコロンビア傭兵の多くは退役軍人で、多国籍企業にスカウトされて約３千～５千ドル程度の報酬で傭兵としてウクライナで戦っていた。

（５）米下院、コロンビアへの資金援助を削減するよう提案

１１日、米下院外交委員会は、ペトロ大統領の外交政策を理由に、２０２５年の対コロンビア支援を最大５０％削減するよう提案した。同提案を含む法案は共和党が過半数を占める下院本会議で承認される必要があり、その後上院に送付されることとなる。

（６）ペトロ大統領、スウェーデンを公式訪問

１２日～１５日、ペトロ大統領はスウェーデンを公式訪問し、カール１６世グスタフ国王、クリステション首相、議会要人等と会談を行い、和平や気候変動分野において協力を継続することを確認した。

（７）ムリージョ外務大臣、ベネズエラ人移民に対する特別滞在許可制度を発表

１８日、ムリージョ外務大臣は、ベネズエラ移民の子供を保護する目的で、コロンビア領内に定着した移民の正規化に向けた特別滞在許可証（Permiso Especial de Permanencia PEP

Tutor) 発行に関する新制度について発表した。この制度により、一時保護許可証 (PPT) を持つ児童・青少年の法定代理人または保護者が新たな滞在許可を得ることができることになる。

(8) ムリージョ外務大臣、ワシントンを訪問

20日、ムリージョ外務大臣は、米コロンビア二国間の移民問題に関するハイレベル会合参加のためワシントンを訪問した。同大臣は、マヨルカス米国土安全保障長官と会談し、コロンビア、米国、パナマ間の三者協議メカニズム再開で合意した。また、エリクソン国家安全保障会議西半球担当上級部長とも会談した。

(9) ボリビアでのクーデター未遂を拒否する声明

26日、コロンビア政府は、同日にボリビアで発生したクーデター未遂事件を非難すると共に、ボリビア軍の一部部隊が行った憲法秩序に反する非民主主義的行動を拒絶した。

(10) ムリージョ外務大臣、第54回 OAS 総会に出席

28日、ムリージョ外務大臣は、パラグアイで行われた第54回米州機構 (OAS) 総会に出席した。同会合においてムリージョ大臣は、地域の民主主義を守る必要性について強調すると共に、テロ支援国家として指定されているリストからキューバを除外するよう他国へ要請した。また各国に対し、コロンビアで開催予定の生物多様性条約 COP16 や第一回児童への暴力撲滅閣僚会合への参加を呼びかけた。

(了)